

佳作

「苦手」を「楽しさ」に 山形県大江町立大江中学校 3年 菅野 志緒里

私は人の前で話すことが苦手。「失敗したらどうしよう。」とか「まちがえたら笑われるかな。」とか考えてしまう。そんな不安と緊張が私を襲い、うまく声が出なくなってしまう。でもそんな私は、今、全校生の前で放送する情報委員会に入り、チャレンジしている。

私が人の前で話すのが苦手だと感じたのは小学校4年生の時だった。私は運営委員会という朝会や話し合いの時に司会をしたり、全校生をまとめるような委員会に入った。みんなをまとめる仕事は好きだった。みんなに頼られるのでとてもやりがいを感じた。でも朝会の司会を務めた時、声を出そうとしたらうまく出ず、声がふるえてしまった。ステージの上に立ち、たくさんの視線を感じたから緊張してしまった。その時からいろいろな人の視線が気になり、人の前でうまく話せなくなったり、人の前に立つと恥ずかしくて顔が赤くなるようになってしまった。

でも行事の運営をするのが好きだった私は、いろいろな行事の実行委員にチャレンジした。小学校では運動会の実行委員、中学校でも運動会の実行委員と、生徒会役員を決める選挙管理委員に入った。人の前で話すことは苦手だけど、行事がより良いものになるように話す文をよく考え、話す練習もした。どこで区切るか、どのくらいのスピードで話すかをたくさん考えた。人の前で話すことに慣れるように少しずつ人の前に立つことを経験してきた。

中学2年生のある日、友達に情報委員会に入ろうと誘いを受けた。情報委員会は給食の時に献立や連絡を放送する仕事だった。人の前で話すことが苦手な私はそんな仕事ができるか不安だった。でも今まで少しずつ人の前で話すことを経験してきたことを生かして頑張ってみたいと思った。友達にも一緒に頑張ろうと言われ、不安な気持ちは晴れた。家に帰ってから家族に情報委員会に入ることを伝え、やる気で満ちあふれていた。

初めて放送をする日、朝から緊張していて給食の時間になるのが怖かった。やっぱりいつもと同じことを考えてしまう。「やっぱり情報委員にならない方がよかったのかな。」と思っていた時、友達から

「楽しみにしてるよ！」

「ちゃんと聞いてるからね！」

と言われ、自分の声を聞いている人がたくさんいる、だからこそ頑張らないと

いけないと思った。深呼吸をし、声がふるえるのを抑えて放送した。自分ではうまくいったと思わなかった。かんでしまったところもあったし、文と文の間が開いてしまったところもあった。でも教室に戻ると友達が良かったと言ってくれたし、いろいろな先生も声が明るくて聞きやすかったとほめてくれてうれしかった。次はもっと良くなるように読む練習をしたり、文の区切りを工夫して話そうと思った。何回か放送をすると慣れてきて、楽しいと思えるようになってきた。

3年生になると、新しく1年生が入ってきて、いろいろなことを教える立場になった。1年生も最初は慣れていなくて、委員会で振り返りをすると課題ばかり出ていた。でも時間を守って放送できたり、ミスをしてもし切り換えて放送できたという良い点もたくさん出ていた。1年生も頑張っているから私も頑張ろうと思った。3年生にも課題はある。それを解決するために真剣に取り組んだ。今は学校の2大行事の運営係長を頑張っている。情報委員会で出た良い点と課題を取り入れ、行事がスムーズに進むように考えたり、話し方を1、2年生に教えたりしている。

今まで人の前で話すことにたくさんチャレンジしてきたけれど、やっぱり苦手。緊張だってすごくするし、まちがえる時もある。笑われてすごく恥ずかしかった時もある。でも今までとは違う。今までチャレンジしてきたおかげで楽しさを覚えた。苦手なことでも楽しいからチャレンジする。楽しいから苦手なことでもチャレンジできる。「苦手だから何もしない」より「苦手だけどチャレンジしてみる」の方が人生楽しくなる。

私のチャレンジは、今までの経験を生かして、これからもずっと続いていく。楽しさを教えてくれた友達に感謝しながら、これからも大好きな「人の前で話すこと」にチャレンジしていく。